

## 22日 水曜

### テモテ I

1:12 私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。なぜなら、キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な者と認めてくださったからです。

1:13 私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした。それでも、信じていないときに知らないでしたことなので、あわれみを受けたのです。

1:14 私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。

1:15 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。

1:16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。

1:17 どうか、世々の王、すなわち、滅びることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄えとが世々限りなくありますように。アーメン。

1:18 私の子テモテよ。以前あなたについてなされた預言に従って、私はあなたにこの命令をゆだねます。それは、あなたがあの預言によって、信仰と正しい良心を保ち、勇敢に戦い抜くためです。

1:19 ある人たちは、正しい良心を捨てて、信仰の破船に会いました。

1:20 その中には、ヒメナオとアレキサンデル



がいます。私は、彼らをサタンに引き渡しました。それは、神をけがしてはならないことを、彼らに学ばせるためです。

パウロは自分について語るとき、自慢するようなことは一切ありませんでした。むしろ過去の失敗について話す傾向があります。それも「罪人のかしら」というように明白な表現で、話を濁したりしません。それは自分自身を「人々の見本に」して、神の「寛容を」示すためです。

このように主の栄光を真っ先に求める人によって、尊いみわざは進んでいきます。自分を誇ったり、美化したりする人には主の栄光は無縁ですし、結局そのうちボロが出てしまいます。

ですからパウロが「私は、彼らをサタンに引き渡しました。」と言うとき、それが個人的な事情ではないことが分ります。それが主と教会のために必要であったのです。

自分本位に気づいて、それを捨てることで、正しい決断をして行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

